

青少年が安心してインターネットを利用できるようにするために...

保護者は、「安全対策をとる」「子供の判断能力を育てる」責任を負っています。



スマートフォン等からSNS等を利用して児童が性犯罪等の被害に遭う事例が増え続けており、令和元年は全国で**2,082名**の児童が犯罪被害に遭っています。この人数は**過去最多**です。

※児童とは、18歳に満たない者をいいます。

事例1

少年Aは、少女Bにわいせつな行為をし、さらにそれを動画で撮影していた。後日、撮影した動画をLINEを使用して同級生に送信した。

少年Aは児童買春・児童ポルノ法違反で検挙されました。子どもでも児童ポルノ(裸の写真など)を送ったり、送らせたりすると犯罪になります。



事例2

大学生Cは、少女Dが18歳以下と知りながら、少女Dの携帯電話で裸の写真を撮らせ自分に送るように依頼し、送られてきた画像をSNSで拡散させようと計画した。

大学生は検挙されましたが、発信された情報は完全に削除することはできません。少女Dは、この先いつこの画像が出てくるのかと心配しながら生活しなければいけません。



こんな事例もあります!!



男子中学生が、インターネットの掲示板に「小学校に時限爆弾を仕掛けた」などと投稿し、小学校を臨時休校させる等、業務を妨害した。

刑法(威力業務妨害)
3年以下の懲役又は
50万以下の罰金

男子中学生は、日ごろからいじめている同級生を無理やり無料通話アプリに誘い入れ、アプリ内でお金を恐喝した。

刑法(恐喝)
10年以下の懲役



令和元年中、事例1のような「児童が自ら撮影した画像に伴う被害」にあった児童は、**全国で584人(昨年度より43人増)**で、そのうち中学生が**49.7%**、高校生が**41.4%**です。
※ただし、被害人数は警察が認知できたもののみになります。

被害児童について

	30年	元年
SNSに起因した事犯の被害児童数の推移	1,811人	2,082人
児童が被害時にフィルタリングを利用していない	88.0%	86.5%

被害児童は増加しているのに、フィルタリングの普及はなかなか進みません。



令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査より

	小学生	中学生	高校生	フィルタリングを導入していない理由
インターネットの利用	75.7%	88.8%	96.9%	子どもを信用している..41.7%
フィルタリングの利用	45.8%	50.5%	45.8%	効果がわからない..22.4%
				子どもに頼まれた..6%



宮崎県警察本部少年課

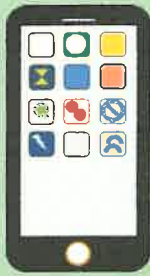


被害防止
のために①



フィルタリングを必ず利用しましょう！

お子さんが安全にインターネットを利用するためには、従来型の携帯電話は①、スマートフォンは①～③に対応するフィルタリングが必要！



- ① 携帯電話回線による接続
(電話回線の中で、アクセスを制限する)
- ② 無線LAN回線による接続
(ブラウザの中で、アクセスを制限する)
- ③ アプリによる接続
(使用できるアプリを個別に許可・禁止する)



フィルタリングとは・・・
インターネット上のウェブサイト等を一定の基準に基づき選別し、青少年に有害な情報を閲覧できなくするプログラムやサービスをいいます。

- ▶ 携帯電話大手3社が提供する「あんしんフィルター」では、4段階の中からフィルタリングを選ぶだけです。簡単な設定で①、②、③のフィルタリングが可能です。レベルの変更や、利用したいサイト・アプリごとの許可(追加)、ON/OFFの切り替えも簡単にできます。
- ▶ 青少年インターネット環境整備法では販売店に対し、青少年が携帯電話を使用する際の年齢確認やフィルタリングの説明を義務付けています。保護者は説明をしっかりと聞き、年齢や利用状況に応じたフィルタリングを設定しましょう。

被害防止
のために②



フィルタリングだけでは、安心は禁物！！

家庭の責任で判断能力を！！



インターネットを正しく使うために(情報モラル)



子供がインターネットを利用する際、保護者は子供が安全に利用できるようにする責任を負っています。フィルタリングと同時に子供の判断能力を育てることが必要です。



子供たちの判断能力を育てるためには、子供と話し合ってルールを決め、ルールを学ばせながら少しずつ自分で判断できる範囲を広げていきましょう。



インターネットを長時間使っている子供は生活全般が乱れがちで、心身の健康を損ねる恐れがあります。利用時間のコントロールについて繰り返し家庭で話し合うようにしましょう。



段階ごとのルールの例

初めてのインターネット期

生活のルールやリズムを守ることを前提に、利用時間をご家庭で話し合って決めましょう。この時期は閲覧のみに制限しましょう。

考えられるルールとしては・・・

- ・使用時間は1日60分までとする。夜9時以降は使わない。
- ・保護者にことわって、近くで使う。
- ・食事中や車の中では使用しない。

初めてのSNS利用期

メールの利用に慣れてきたら、仲の良い友人や知人に限り、SNSやメールを許可します。家庭内でのコミュニケーションを保ち、ときどきやり取りの様子を見せてもらいましょう。

考えられるルールとしては・・・

- ・自分や友達の個人情報、写真はネットに公開しない。
- ・メールやSNSは実際に会ったことがある友達だけとする。
- ・自分が言われて嫌な事や悪口はSNSやメールで送らない。



インターネットレベルアップ期

利用時間のルールを守れ、使い方にも慣れたら、家族間でメールのやりとりをするなどして、文章の書き方や上手な気持ちの伝え方などアドバイスしましょう。考えられるルールとしては・・・

- ・決まった人以外、返信やアクセスはしない。
- ・変わったことや困ったことが起きたら、すぐに相談する。
- ・公共の場で利用する時は、ルールやマナーを守る。

SNSレベルアップ期

家庭のルールや社会規範に加え、ネットの特性を理解できる段階になれば、広く活用を許可する。ただし、危険な行為や、犯罪に巻き込まれることを防ぐため、使い方を把握し、必要な注意やアドバイスをします。

考えられるルールとしては・・・

- ・ネットやSNSで知り合った人とは直接会わない。
- ・他人にIDやパスワードは教えず、ネットでの買い物などは保護者の許可を得る。
- ・ネット上に公開する内容は、送信前にしっかりと見直すとともに、毎月の通信料をチェックし、計画的に利用する。